

## 令和4年度 地域ケア包括合同会議概要

≪第1回≫令和4年5月12日（木）

【参加者】 アドバイザー：聖徳大学 心理・福祉学部社会福祉学科 須田准教授  
あさくさ地域包括支援センター、やなか地域包括支援センター  
みのわ地域包括支援センター、くらまえ地域包括支援センター  
まつがや地域包括支援センター、たいとう地域包括支援センター  
ほうらい地域包括支援センター、社会福祉協議会

## 【議題及び内容】

## ●マンション住民向けのチラシ作成の再検討

（経緯）

令和3年度第2回地域ケア包括合同会議（令和3年10月）にて、マンション住民に対する地域包括支援センターの周知が不十分であることが課題に挙がる。第3回合同会議（令和4年1月）にて、『マンションに対する地域包括支援センターの周知について』話し合った結果、分譲マンションの住民に向けた地域包括支援センターの周知チラシを作成することとなる。地域包括支援センター連絡会（令和4年3月）にて、各包括で作成した案をプレゼンテーションした。

⇒各包括・社協の改訂版（別紙1）について、ペアワークにて内容や表現等に関して検討。

あさくさ…前回との変更は特になし。具体的な事例を入れ込むことと、特定のマンションに向けた文言を記載。

やなか…前回作成時より読みやすいように文字を拡大。「こんな人がいるかな」と住民が考えて当てはめられるような内容に。QRコードを導入した。

みのわ…住民の困りごとに焦点を絞った内容。前回との変更はなし。

くらまえ…40.50代の現役世代が見てわかるような内容に。見やすいよう情報は少なめに。

くらまえ包括は場所がわかりづらいため地図を導入。

まつがや…字を大きくした。目を引くようなチラシにするために、色紙で印刷した。

たいとう…大きな変更点は無し。シンプルで、すぐに目につくようなデザイン。

ほうらい…40.50代に響くような内容を取り入れた。他包括のものを参考にし、写真を取り入れた。

社協…変更点は無し。交流・体操や介護予防などの気になるようなキーワードを目立たせるようにし、参加支援につながるようなチラシに作り上げた。

➡対象を住民向けとしているため、高齢者が見て不快に思うようなフレーズ等は避けるように再検討。

## ●「住民の方が見るとしたら」という視点からチラシの見直し

・「チラシを見た際に誰が相談してくるのか。」「気にかけている近隣の人が電話をかけてくるのか。」

「困りごとを抱えている人が相談してくるのか」を考えなければならない。本人が見るとすれば「大きな音がする」や「怒鳴り声がする」などの文言は相談しにくいのではないかと。

「高齢者のこんな疑問やお困りごとについてお気軽にご相談ください」のようにすれば近隣の方でも高齢者本人でも相談しやすい文言になる。

- ・心配する人がいる場合には具体的に内容を記載したほうが伝わりやすいのではないかな。
- ・目的、誰に向けるかによって伝わりやすい内容は異なる。
- ・包括が高齢者の相談先であるということだけでも伝われば意味があるのではないかな。
- ・高齢者や近隣の方が見た際に印象に残るのはたいとう包括のようなシンプルなデザインではないかな。
- ・いろいろなチラシがある中でぱっと見で分かりやすいほうが良い。
- ・地域や住所ではなく、最初のきっかけとして電話番号だけの記載だけでも良いのではないかな。
- ・包括のことを知ってもらうことに重きを置くべき。
- ・マンションの住民の年代層に併せて、いくつかのパターンを持っておくとも強みになる。

➡須田アドバイザーからのご意見

①地域包括支援センターはどんなところかを知ってもらうためのチラシ

②「こんな悩みはありませんか」という高齢者本人へ向けたチラシ

③当事者を取り巻く住民の方に向けたチラシ

の3つに分類可能。①②③の目的によって分けて検討する。

①→②→③と、段階を踏んでチラシを配布・周知していくのも良いのではないかな？

～分かりやすいチラシのポイント～

- ・高齢者の方に向けるのであれば明朝体よりもゴシック体
- ・ユニバーサルデザインフォントを使用する
- ・文字の大きさは14pt,以上
- ・コントラストをハッキリさせる
- ・黄色や灰色は避ける
- ・文字・行間を空ける
- ・枠を外し、情報量の多さを回避する
- ・イラストを使用し、文字を減らす

★地域包括支援センターのことを知ってもらうきっかけとして、全包括統一で台東区と銘打ったチラシを区で作成し、段階を踏んで当事者向けや近隣の方向けのチラシを作成していくこととなった。

≪第2回≫令和4年8月17日（水）

【参加者】 アドバイザー：聖徳大学 心理・福祉学部社会福祉学科 須田准教授  
あさくさ地域包括支援センター、やなか地域包括支援センター  
みのわ地域包括支援センター、くらまえ地域包括支援センター  
まつがや地域包括支援センター、たいとう地域包括支援センター  
ほうらい地域包括支援センター、社会福祉協議会

【議題及び内容】

<議題1：マンション住民向けチラシについて>

●チラシの修正案について（最終案）

- ・「高齢者とそのご家族の相談窓口です」では、それ以外の方が相談しにくいのではないか。→「高齢者に関する相談窓口です」に変更。
- ・「お気軽にご相談ください」に「誰でも、どなたでも」と加える。

➡会議後の進捗

- ・令和5年1月、チラシ（別紙2）を区から管理組合に向けた説明文と併せてA管理会社に送付し、管理組合への配布を依頼。
- ・A管理会社以外にも直接他の管理会社や管理人にも各包括でチラシを加工してアプローチしてもらう。
- ・チラシの配布によって住民・管理組合との関りにつながった事例を報告することを共有。

●まつがや地域包括支援センターの取り組み：『高齢化しているマンションとの情報交換』

日頃から何かあると管理人が連絡をくれる分譲マンションがある。2か月に1回、包括と情報共有している。これまでに救急キットの申請などにつながっている。

<議題2：高齢者の終末期や死後に関する検討について>

●区からの提案

- ・身寄りのない高齢者が亡くなった場合、死亡先の自治体で行旅死亡人として処理され、火葬後、遺骨の引き取り手がいないと共同墓地へ埋葬される。
- ・終末期や死後の希望が確認できていないことで、様々な関係者が困ってしまう現実がある。  
本人…治療や介護、葬儀、埋葬、相続などの希望が通らない。  
病院…医療同意が取れない。治療費が請求できない。  
介護保険事業所…サービス費の請求ができない。  
管理人…家の引き渡し、家財処分ができない。  
その他…公共料金の支払い、保険会社、金融機関など
- ・現在台東区では生前の準備として『もしもノート』と『わたしの思い手帳』を用意。  
『もしもノート』  
…社会福祉協議会が作成。預貯金・保険内容・不動産などミクロな情報を記入。

### 『わたしの思い手帳』

…東京都が発行。どのように過ごしたいか、信頼できる人などをマクロな情報を記入。

- ・地域包括支援センターやケアマネジャーが本人の希望を確認し、高齢者の希望に沿った形で最期を迎えられるように支援する方法の一つとして、『もしもノート』と『わたしの思い手帳』の中間に位置するようなものを作成するのはどうか。

### ●現状について各包括より

- ・介護サービス利用料などの支払いについて、事業所から問い合わせがある。
- ・「入院したらどうしよう」という声が多い。
- ・後見制度が浸透していない。本人に説明しても必要性を感じていない。
- ・「まだ大丈夫」と言われることのほうが多い。
- ・病院から医療費の未払いの問い合わせが来ることがある。
- ・包括からのアプローチが難しい。職員からお金のことを聞くと苦情になりかねない。
- ・死後のことを考えている方は、公証役場で手続きを行っている方が多い。
- ・お墓の処分について包括で相談を受けるのが年1～2回程度。
- ・身寄りがなくサービス費が払えない方がいると、他の身寄りがない方の受け入れも難しくなる可能性もある。
- ・本人も支援者も困っているが、現状対策がない。
- ・緊急連絡先を聞くと教えてもらえないことがあるが、救急キットの申請用紙には書いてくれる場合もある。
- ・普及啓発をするならば、高齢者ではなく40代～50代に向けた方がいいのではないか。

### ★現状を踏まえて下記の案が挙がった。

- ・ケースのパターンを考えて、共有する
- ・あらかじめ聞いた方がいいことを決めておく
- ・包括職員の過去の経験から検討してみる
- ・『認知症ではない、身寄りがない、お金がある人』にターゲットを絞る
- ・40～50代の若年層に向けた啓発と前期高齢者に向けた啓発

➡次回の会議で検討する内容については、区で一度精査していくこととなる。